

子どもの喜ぶ造形遊び(3)

—いくつかの新提案—

木俣 創志



1. はじめに (註1)

2021～23年のコロナ禍において実施した子ども向けワークショップ・図工の授業で、とびきり好評を得たオリジナル企画がありました。

技術的な「上手い下手」の優劣が生じにくいペーパークラフト「空飛ぶ海月姫(くらげ)」制作をメインとするもので、小学生なら誰でも楽しくつくることができます。制作後に自身でつくった作品を遊具として使い、身体を動かさずゲーム遊びを行えば気分よく発散して終わるので、コロナ禍のようなストレスフルな状況にも相応しい内容になっています。また、参加した子どもたちは、図工や美術、造形などに対する苦手意識を感じずに「つくること・かくこと」の面白さを体験することも出来、造形イベントの導入などにも適しています。

簡単手軽な準備と指導で、楽しい思い出をつくってみませんか。ぜひご利用ください。

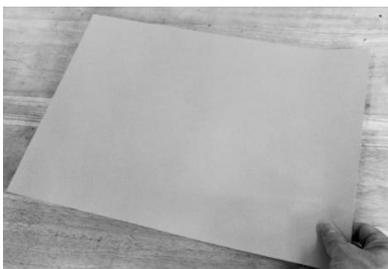
2. 「空飛ぶ海月姫(くらげ)」で遊ぼう！

【年齢】小学1～6年生

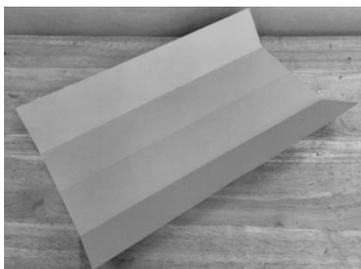
【季節】通年

【用意するもの】色画用紙(A3)1枚、はさみ、セロハンテープ、ナイロン紐(数種類)、各種シール、水性ペン、プールのティック、カッター

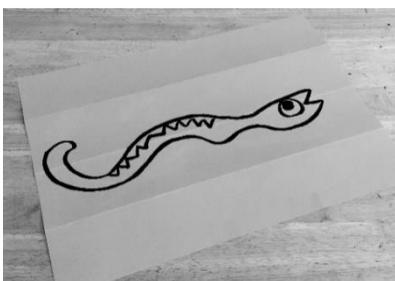




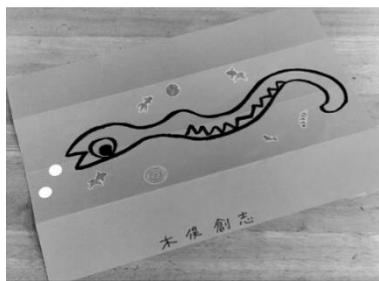
A3の色画用紙



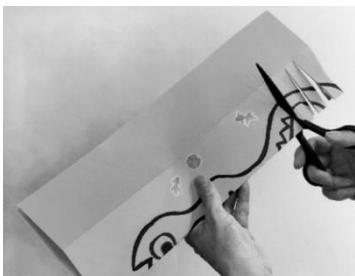
縦に2つに折り、さらに4つに折る



裏返して、中央寄りに絵を描く



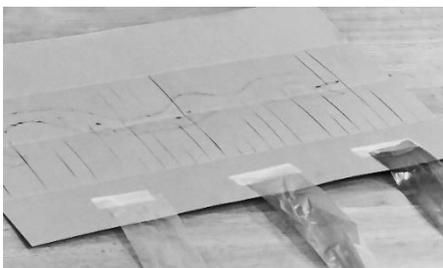
シールを貼り、上下逆さにして名前を



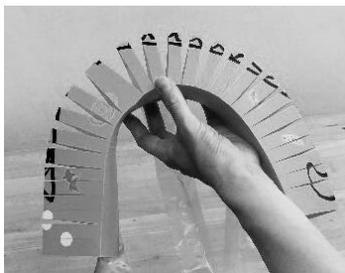
2つ折りにして、折った側をカット



ナイロン紐をカット



裏返して、名前の裏部分にナイロン紐を接着



三角柱に組み、くるんとしたら…

【つくり方】

トータルの制作時間の目安は、小学1～2年生…約3時間、3～4年生…約2時間半、5～6年生…約2時間。(参加人数が多く、また装飾を丁寧に施すほど、制作時間がより長くなります。)

A 3の画用紙を、縦に2つに折ります。

いちど広げ、折り目に沿って左右から4つに折ります。

もういちど広げて裏に返し、4つ折りにした画用紙のとくに中央2つの部分を中心に、水性ペンで模様や絵を描きシールを貼るなどの装飾を施します。

画用紙の装飾を施した面の端に、自分の名前を書きます。(描いた絵に天地がある場合、写真のように上下逆さにして名前を書きます。)

再び折り目に沿って中央から2つに折り、(名前を書いたほうとは逆の、紙全体の中央にあたる)折り山の出来ているほうを、約1～1.5cmの間隔を目安にカットします。シールや描画された装飾にかまわず、ハサミを入れます。**折れ線に切れ込みが届くまで、しっかりカットするのがポイント**です。



制作中の子どもと作品

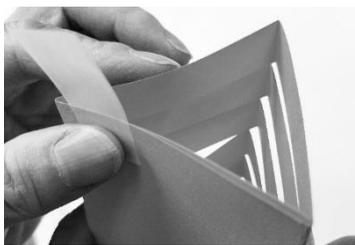
ナイロン紐を3～4本カットします。ナイロン紐は海月姫の足となるので、子どもの好みの長さで構いません。足の長さの決定に迷う子どもには、予め紐を長めにカットしておき、あとからハサミで容易に短く出来ることを伝えます。

2つに折られた画用紙を広げて裏返しにし、名前の裏に相当する部分にナイロン紐をセロハンテープで接着します。

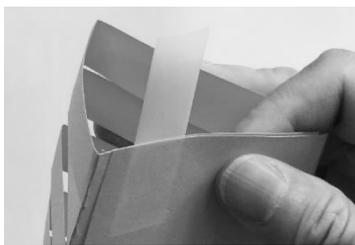
名前が表になるよう三角柱に組み立てます。

三角柱の片方の端を、セロハンテープでとめます。

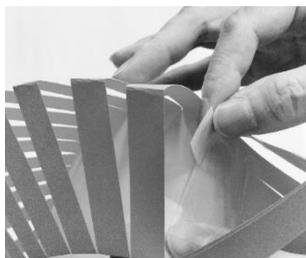
反対側の端も同様にセロハンテープでとめますが、このとき、**三角形の1辺を反対側の1辺よりも約5mm大きく(ずら)して接着するのがポイント**です。三角形と三角形をつなぎ合わせて丸い円環の海月姫をつくる際、はめ込みやすくするためです。



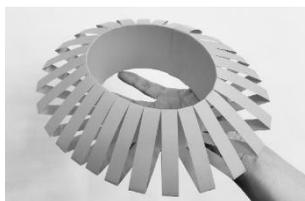
端をセロハンテープでとめる



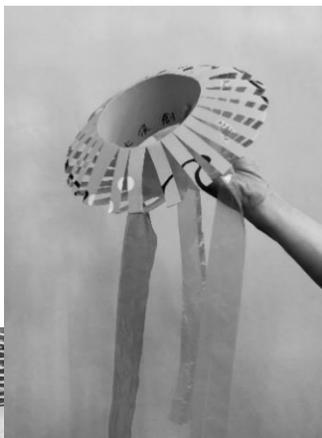
反対側の端は5mmほど大きくずらしてとめる



両端をはめ込み、要所要所をセロハンテープで補強する



このかたちは最近よく見る



完成！



足がたくさんのマイクラゲ



「さあ、飛ばすよ～」



プールのスティックは
カットしておく



足をつけて…



頭をつくる

三角形と三角形をつなぎ合わせて、丸い円環の海月姫の頭をつくります。

セロハンテープで、重なっている部分をとめて完成です！

ポイントは、切れ込みを入れる際、**折れ線に切れ込みが届くまでしっかりカット**し、丸い円環の海月姫をつくる際、はめ込みやすくするために**三角形の1辺を反対側の1辺よりも約5 mm大きくして三角柱をつくる**、という2点です。

【参加者の人数が多い場合】

制作時間が長めになることが多いので、予め計画にゆとりを持たせておきます。また、たくさんの色数の色画用紙、ナイロン紐を用意し、好みの色を子どもに選んでもらいましょう。

参加人数に比べてテープカッターの台数が限られている場合など、画用紙のカット作業の間に、セロハンテープとナイロン紐のカット作業を並行して進めておくことで時間のロスが少なくてすみます。その場合は、テープカッターと各色のナイロン紐の入ったケースを、子どもたちのテーブルに適宜回します。セロハンテープ約5 cmを10本ほど、子どもの座っている机の端に並べて軽く貼り、各自ストックしておくようにしてもよいでしょう。このとき、とくに1～2年生の低学年に、サポートが必要となることがあります。



【遊び方など】

プールスティックを支援者がカッターで50 cm程度にカットし、海月姫飛ばし遊びのキャッチ棒として準備します。(プールスティックは百円ショップでも購入可)

ペアになった相手と距離を保ち、一方が海月姫を投げて他方が(海月姫の穴に)キャッチ棒を通してキャッチします。海月姫はフリスビーのように回転をかけて飛ばして

ください。飛ばすのもキャッチするのも最初の数回は難しいかもしれませんが、どの学年の子どもも夢中で遊び、次第にスキルアップしてきます。



「えいっ！」

TAPスタッフによる理想的な海月姫飛ばしフォーム



【展開のヒント】

ここからは造形遊び的な話になります。

(プールのスティックの代わりとして)キャッチ用に準備したラップの芯などを、接着剤(グルーガンや「速く接着する工作のり」3Mが便利)を使って厚紙に固定すれば、輪投げゲームのボールとなり、輪投げゲームを楽しめます。写真のように、プールのスティックの残りをスチロールボンドで固定してもOKです。ビニールホースやゴムホースをカットし輪にしてつくったオリジナル輪投げのような重さや硬さがないので、子どもたちが多少エキサイトしても安全です。

また、輪投げゲームに飽きたら、海月姫の輪の接合部を外して輪投げゲームのボールの上と下に固定すれば、塔のような未来都市の建築物となります。この塔は、発砲スチロールの球を転がすなどの遊びも楽しめます。三角の管を球がコロコロと転がる様子が外から見られます。途中で球がつかえないようにするにはどうしたらいいか…子どもたちと一緒に考えても楽しいです。

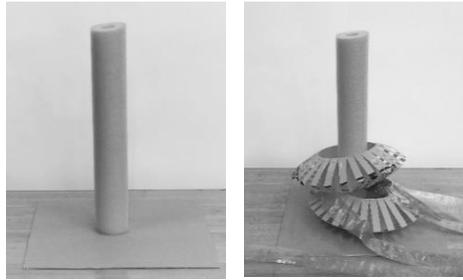
さらに、海月姫のままの形状で、(さまざまなデコレーションを施して)王冠にして頭にのせたり、新聞紙でつくったドレスをしめくくる袖口のフリルとしても楽しめます。皆さんで楽しい遊び方を工夫してみてください！

3. むすびに

本ワークショップ「空飛ぶ海月姫で遊ぼう！」は、取手市(茨城県)主催による2021年度(令和3年度)「放課後アートの時間」(註2)にアーティストとして参加した際、担当した9日間のうち、放課後子どもクラブ会場3ヶ所とたいけん美じゅつ場VIVA(い

ずれも取手市)において、計6日間実施したものです(註3)。

幸いにもこれらイベントにおける「空飛ぶ海月姫」の反応は予想以上に好評で、(放課後子どもクラブの)支援員さん、参加してくれた子どもたちへのアンケートにもそれが示される結果となりました(註4)。

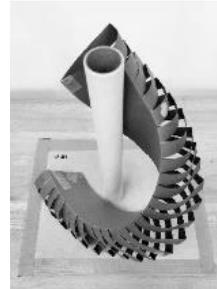


輪投げゲームも楽しめる

公教育の現場においても試してみようと思ひ、**都内の小学校**で短期の図工の教員に着任した際、カリキュラムの終盤に「空飛ぶ海月姫」を取り上げました。小学校の図工の時間は必ずしも造形することが好きな子どもたちばかりとは限らず、したがって「空飛ぶ海月姫」のペーパークラフトとしての魅力と質が問われることとなります。ところが意外にも、実施した3~4学年全4クラスにおいて誰1人として嫌な顔をせず夢中で完成させ、遊具として楽しんだ様子が伺えました。(註5)



未来都市の建築物で球転がし…



上から見たところ

以上の経緯を受け、この度、本誌に「空飛ぶ海月姫」を発表するに至った訳ですが、ワークショップ時には「『空飛ぶ海月姫』のアイデアをいつどのように思いついたか?」についての質問が少なからずありました。

そもその原案は「静岡英和保育実践研究会」(2017年2月)の講師として招かれた際に、いくつかの実験的な造形として発表したもののひとつでした(註6)。1枚の紙からつくられる原型が、冠やプレスレット、クリスマスリース、秘密基地…などに自在に変換可能な「かたちの面白さ」を、子どもたちとともに体験出来る(幼児にはやや難易度の高い)ペーパークラフトとして、現役の保育士さん、保育の専門家の先生と一緒に制作したのが始まりです。自在に変換可能という点では、「子どもの喜ぶ造形遊び

(1)「いくつかの新提案」で紹介した、すき間テープを素材とする工作(「すき間テープのソフトクリーム」)などと同様かもしれません(註7)。

子どもたちと実施するのは、その研究会から4年半後の「放課後アートの時間」が初めてで、このときに「空飛ぶ海月姫」の名付け親になりました。

実際に「放課後アートの時間」の各会場において実施するにあたり、当初私は「空飛ぶ海月姫」を**プログラム・メニューの導入**として位置付けていました。誰がつくっても失敗が生じにくく同じかたちに仕上がるので、技術的な優劣が目立たないからです(註8)。加えて、こうしたプログラミングはスタート時に子どもたちの感性が萎縮せずに解放されるため、のびのびとした活動を助けるウォーミングアップとなるばかりでなく、私自身が子どもそれぞれのキャラクターを把握し、(より難易度の高い)次のプログラムへのステップをイメージするためにも有効です。



子どもたちは、勝手に遊び方を工夫していく

さて、ところがいざ終わってみると、この工作ワークショップには別の狙い、すなわちペーパークラフトの手作業のあとで**身体を動かし気分良く発散して終わる**という目的意識が隠れていたことに気づきました。幸いにも、子どもたちを取り巻くコロナ禍におけるストレスフルな状況に相応しい造形プログラムでした。

もとより今般、メンタルヘルスの維持にとって身体を動かし、あるいは何かに没頭することの有効性は、放課後クラブの支援員さんや学校の先生方が最も注力しているところであり、さまざまな働きかけがなされてきたことと思います。

それはそれとして。この「空飛ぶ海月姫」を扱ったワークショップや小学校の授業では、子どもたちが僅か1枚の紙と数本のナイロン紐から自分自身でハンドメイドによる遊具をつくり、それを使って予想以上に夢中になって遊んでくれたこと、そしてその時間を僅かでも共有出来たことが、私にとってもたいへん楽しい思い出となっています。

註

- 1) 「子どもの喜ぶ造形遊び—いくつかの新提案—」シリーズ全体の序文は、拙論「子どもの喜ぶ造形遊び(1)—いくつかの新提案—」の「1.はじめに」を参照してください。(『美』212号、京都市立芸術大学 美術教育研究会、2020年、p.32)
- 2) 「放課後アートの時間」は取手市(茨城県)による独自の事業であり、その運営をNPO法人 取手アートプロジェクトオフィス(TAP)に委託しています。
2020年度(令和2年度)にスタートし毎年開催され、2022年度(令和4年度)3回目をもって一旦終了しましたが、2023年度(本年度=令和5年度)、放課後クラブの現場を担う支援員さんからの強い要望もあり小規模ながらリスタートされました。
アートの多様な視点や価値観をともに体験することで、子どもたちのコミュニケーション能力が育まれると同時に芸術家の新たな実践・研鑽の場となること、他者との関わり合いを通じて、社会とつながるきっかけを得ることを目指しています。
尚、この註は、拙論「子どもの喜ぶ造形遊び(2)—いくつかの新提案—」註5(『美』218号、京都市立芸術大学 美術教育研究会、2022年、p.29)と同様、取手アートプロジェクトHP「取手市内公立小学校放課後子どもクラブ芸術家パートナーシップ事業 令和2年度実施レポート」<https://toride-ap.gr.jp/baseprogram/intermediary/?p=7703> を主な典拠としました。(2022年9月6日参照)
- 3) 「空飛ぶ海月姫」の最初のプランは、3か所の放課後子どもクラブ会場において、制作とゲーム遊びを各1日ずつ2日間で1セット行ない、計6日間の予定でした。ところが、コロナ第6波の流行(2022年1~4月)によって最後のクラブで活動中止を余儀なくされ、制作のみで(ゲーム遊びが出来ずに)終わり、放課後子どもクラブでは計5日間となった経緯があります。
一方、制作がなく、ゲーム遊びのみが実施されたケースもありました。上記活動中止のおよそひと月半後、たいけん美じゅつ場VIVAにおいて、(不特定多数の親子などが対象で出入り自由の)「ちょこっとたいけん・放課後アートの時間」と名付けられたいくつかのワークショップの一環として、作成された海月姫を用いて「海月姫飛ばし」のみを来場者に遊んでもらった活動です。(私はこの日、同会で「水書板でエアブラシ体験!」のワークショップを実施していたため、「海月姫飛ばし」はTAPスタッフが行ないました。)

- 4) 有効回答は42名(支援員さん4名、子ども38名)、コーディネーターさん、支援員さんがアンケートを実施し回収を行なった無記名アンケート。自由記述欄には、支援員さん、子どもたちそれぞれから好評をいただきました。以下は数値結果。(アンケートの対象には「空飛ぶ海月姫」以外のプログラムも含まれていません。)

● 子どもたちへのアンケート

Q「アートの時間は、どうでしたか？」 A「楽しかった…35 普通…3 つまらなかった…0」

Q「またやってみたいですか？」 A「はい…38 いいえ…0」

● 支援員さんへのアンケート

Q「子どもたちの満足度(楽しく取り組めたかどうかなど)は、どれくらいだと思われましたか？」

A「満足…3 やや満足…1 普通…0 やや不満…0 不満…0」

Q「またこのような、芸術家の方々と関わる機会があっても良いと思われませんか？」

A「はい…4 どちらともいえない…0 いいえ…0」

「放課後アートの時間」初年度スタート時のアンケートにも明確に記しましたが、本事業は学校での「図工」の授業と異なり、参加したくなくばなくてよいといった子どもにとっての選択の自由があります。これは「新しい造形遊びの実験場」としても至極適したものとと言えます。

- 5) 東京都墨田区立緑小学校において3学期のみ非常勤講師を務めたのは、2023年1～3月のことです。その際、2022年秋より延期されていた展示イベントを微力ながらお手伝いし、また3～5学年計8クラスの図工専科を担当しました。「空飛ぶ海月姫」を取り上げたほか、「放課後アートの時間」でやり残した課題なども実施することが出来ました。制約なくのびのび授業させていただいた富永央星さん(同小学校副校長)には深謝申し上げます。
- 6) 本研究会は小沼肇さん(小田原短期大学名誉学長・元神奈川県児童福祉審議会保育部会長)の呼びかけにより企画され、現役保育士さんなどの有志が集まり、幼児教育の専門家とともに毎回さまざまなテーマが深く掘り下げられます。当日のテーマは「子どもたちが絵を描くことを好きになるために」でしたが、前半はいくつかの造形遊びの紹介と試作、後半は造形をめぐる現役保育士さんの抱える悩み

相談(質疑応答)となりました。私をお招きくださり、本研究のきっかけをつくっていただいた小沼肇さんには厚く御礼申し上げます。

- 7) 拙論「子どもの喜ぶ造形遊び(1) —いくつかの新提案—」(『美』212号、京都市立芸術大学 美術教育研究会、2020年)p.33~34。
- 8) 技術的な優劣が生じにくい造形課題は、造形に不要な苦手意識を感じさせないという点で、ワークショップや授業の導入にたいへん適していると考えられます。詳しくは、拙論「美術を好きにするために(2) —幼児教育を学ぶ人への造形指導—」(『美』196号、京都市立芸術大学 美術教育研究会、2015年)p.59 を参照してください。

協力：取手アートプロジェクト (TAP)

東京都墨田区立緑小学校



画家 美術研究家

静岡英和学院大学 昭和女子大学

東京保育専門学校

非常勤講師(美術・造形)